

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

宮崎県 西米良村

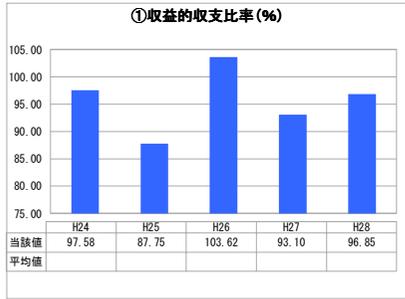
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	37.10	88.60	2,500

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,209	271.51	4.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
433	0.23	1,882.61

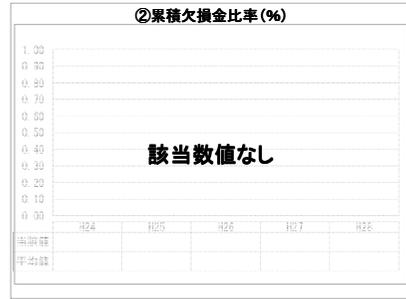
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



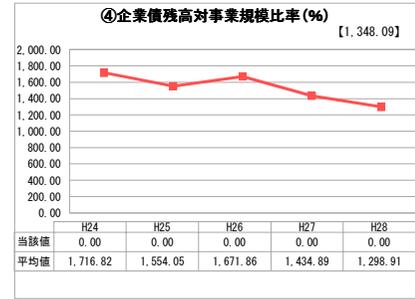
「単年度の収支」



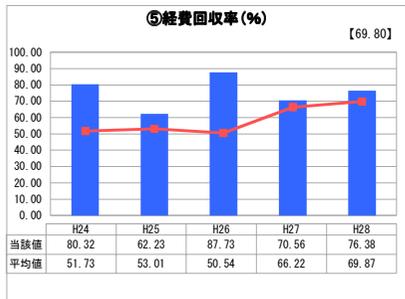
「累積欠損」



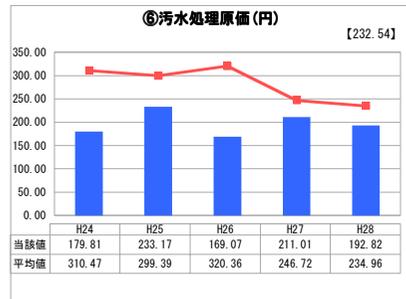
「支払能力」



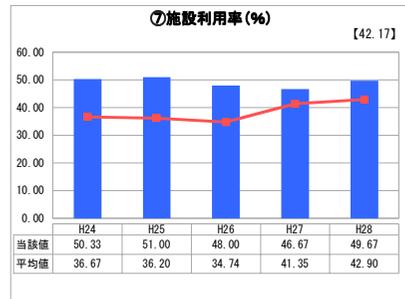
「債務残高」



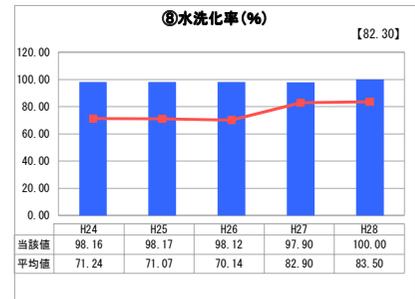
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

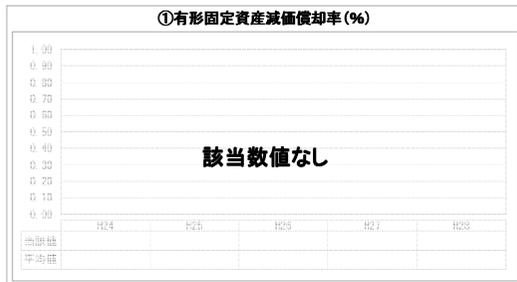


「施設の効率性」

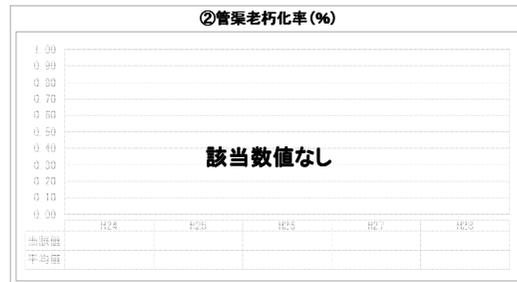


「使用料対象の捕捉」

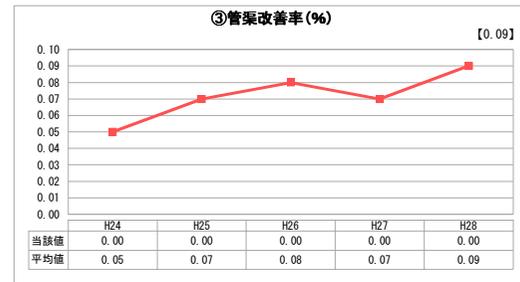
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率  
当該年度決算においては前年度より約4%上昇した。これは一般会計繰入金及び同会計負担金の増額によるものである。  
地方債の償還が平成42年度に完了する予定であるが、今後施設の更新時期を迎えるため経営健全性の確保に努めたい。
- 経費回収率  
平成24年度からの経費回収率は約88~63%の間で推移している。これは修繕費が主な要因である。今後施設の更新時期を迎えるが、数年の間は現状のまま推移すると見込まれる。
- 汚水処理原価  
地方債償還金の返済が完了したことや経営改善により、汚水処理原価は平均値より下回って推移している。
- 施設利用率  
当該年度の最大流入量(晴天時)が247.00m<sup>3</sup>/日で最大処理能力の82.33%に達している。また、平均流入量(晴天時)が149.00m<sup>3</sup>/日で最大処理能力の49.67%に達している。この数値は全国及び類似団体の平均値を上回っているため、施設規模は適正であると分析した。
- 水洗化率  
ほぼ100%に近い水洗化率を維持している。今後も現状を維持したい。

### 2. 老朽化の状況について

本村の終末処理場は平成12年度に供用を開始し17年を経過している。今後は電気計装設備や水処理設備が耐用年数を超過し更新時期を迎えるため補助金等を活用しながら計画的な施設更新を検討したい。

### 全体総括

地方債償還金の返済完了に伴い汚水処理に係る費用が減少しており収益的収支比率、経費回収率、汚水処理原価が改善されてきている。経営戦略については平成30年度に策定の予定である。今後も料金収入は横ばいで推移すると見込まれるため、更なる歳出入削減に努めるなど経営健全性の確保に努めたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。